記者発表資料

平成２５年８月５日
国交省湯沢河川国道事務所
国交省岩手河川国道事務所

合同調査を初開催します
～秋田駒ケ岳に係る秋田・岩手両県の防災関係機関が合同調査～

約40年周期で噴火を繰り返している秋田駒ケ岳（前回の噴火から今年で43年経過）について、今後の防災情報の綿密な共有が重要となります。
今回、秋田県、岩手県両県の防災担当者が、現在の秋田駒ケ岳の状況を調査、確認する合同調査を実施するので、お知らせ致します。
なお、合同調査は今回が初開催となります。

日　　時：平成25年8月8日（木）　8時～15時（予定）

集合場所：秋田駒ヶ岳火山防災ステーション
(仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-16、アルパこまくさ内)

参加機関：8機関

【秋田県側】
秋田県総合防災課
河川砂防課
仙北市市民生活部
建設部

【岩手県側】
岩手県総合防災室
砂防災害課
雫石町地域整備課
防災課

【国関係機関】
秋田大学工学資源学部
国土交通省湯沢河川国道事務所
岩手河川国道事務所
気象庁秋田地方気象台
盛岡地方気象台
林野庁秋田森林管理署
盛岡森林管理署

参加人数：35人（予定）

※1.気象状況等によっては、調査を延期することがあります。
※2.当日はマイカー規制の実施日となっております。取材希望の場合には、集合場所から八合目駐車場まで当方準備のバスに乗車可能ですので、事前連絡願います。

湯沢河川国道事務所HP：URL（http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/）
岩手河川国道事務所HP：URL（http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/）

※発表記者会：秋田県政記者会、岩手県政記者会、
横手記者会、秋田魁新報社大曲・湯沢支局

《問い合わせ先》
国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
湯沢市関口字上寺沢６４－２
電話０１８３－７３－５５４４
技術副所長　土田（つちだ）　恒年（つねとし）（内線２０４）
調査第一課長　畑山（はたやま）　作栄（さくえい）（内線３５１）

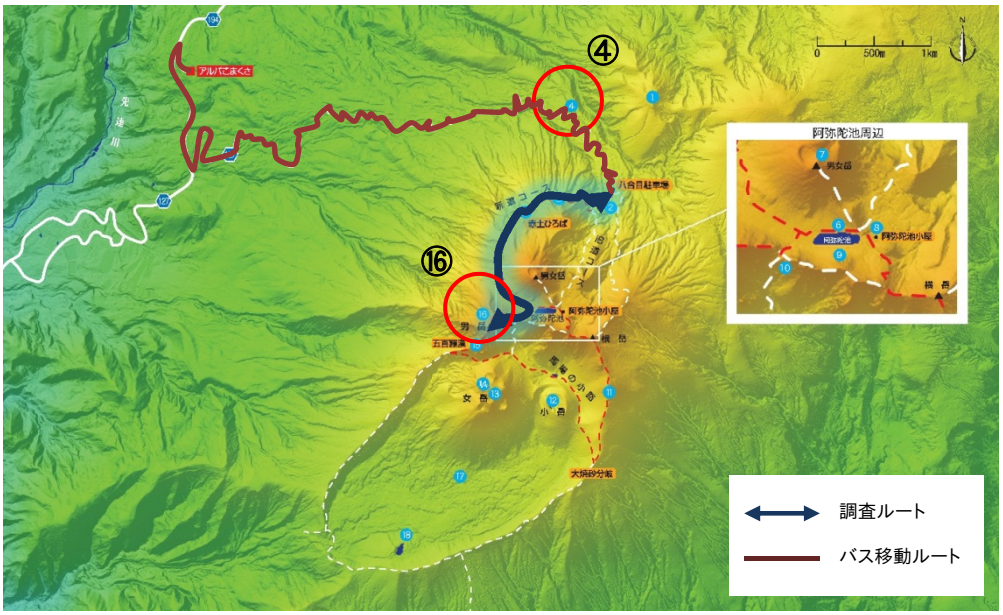
集合場所

名称：秋田駒ヶ岳火山防災ステーション（アルパこまくさ内）
住所：仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-16



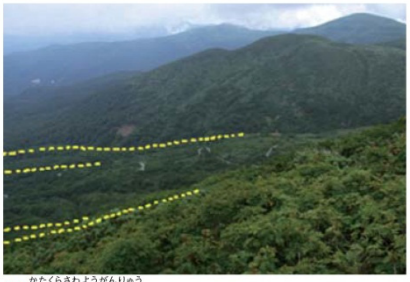
調査ルート

・秋田駒ヶ岳火山防災ステーションから八合目駐車場までバスで移動
・八合目駐車場を出発、途中「阿弥陀池」を経由し、「男岳」まで調査を実施（帰路は逆コース）

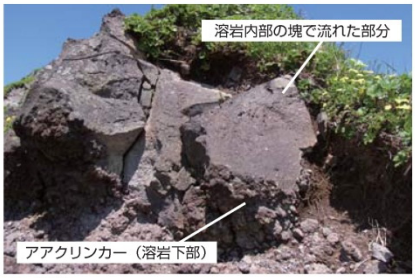


調査箇所の一例紹介

・秋田大学工学資源学部 大場准教授より、秋田駒ヶ岳の噴火史や噴火の痕跡等について、現地にて説明をいただきます



④片倉沢溶岩流（かたくらさわようがんりゅう）
八合目駐車場から阿弥陀池に向かう登山道から北～北東の方角に、およそ7～6000年前に片倉岳から谷を埋めるように流れ出した溶岩流の跡を観察できます。八合目駐車場に向かう車道や駐車場は溶岩流の上にあることがわかります。



⑯男岳（おだけ）登山道わきで観察できるアアクリンカー
男岳登山道わきでは、アアクリンカーと呼ばれる痕跡を観察することができます。溶岩は流れる時、表面から冷えて固まり岩になります。この時内部はまだ熱く流れ続けますので、表面の岩の部分は砕けた岩の集まり(クリンカー)になります。このクリンカーがトゲトゲしているものをアアクリンカーと呼びます。